

# 荒川区の ゴミ問題...

# ゴミ減量目標は達成できるのか？ 生活の転換とともにゴミ発生抑制を

日本共産党荒川区議会議員団

# 横山幸次

区政報告  
ニュース

569

2015年3月22日  
発行 日本共産党区議団  
3802-4627  
fax 3806-9246  
✉ arajcp@tcn-cat  
v.ne.jp  
町屋相談室  
荒川区町屋5-3-5  
3895-0504  
✉ yoko1951@aol.jp

横山幸次区議のホームページ・ブログ・ツイッターを  
ご覧下さい。横山幸次で検索して下さい。

	2010年度 実績	2013年度 実績 (H22年度比)	2013年度 (参考)目標値 (H25年度実績比)	2021年度 目標値 (H22年度比)
総排出量 (g/人・日)	960g	907g (▲53g)	910g (+3g)	800g (▲160g) ※1
総排出量 (t)	71,015t	68,480t (▲2,535t)	69,138t (+658t)	64,140t (▲6,875t)
総ごみ量 (g/人・日)	800g	756g (▲44g)	740g (▲16g)	600g (▲200g) ※2
リサイクル 率 (%)	16.4%	16.6% (+0.2%↑)	19% (+2.4%↑)	25% (+8.6%↑)
資源回収量 (g/人・日)	160g	151g (▲9g)	169g (+18g)	200g (+40g) ※3

**ゴミ問題は持続可能な社会をつくる要です  
リサイクルだけでなくリデュースなど3R推進を**

先日、荒川区清掃審議会が開かれ、横山区議も委員として参加しました。

ゴミ減量・「ゴミゼロ」は、社会全体の持続的発展にとって解決すべき重要課題です。23区の最終処分場「新海面処分場(都管理)」は、50年しか持たないといわれています。

埋立は、限界があります。問題は、どうやってゴミを減らし、ゴミを無くすかです。そのためには、ゴミを出さない生産活動と生活スタイルを追求することが欠かせません。区のゴミ減量計画は、各家庭での排出抑制と再生「リサイクル」だけが数値化されて

必要です。

責任を持たせる制度の確立が

製品最終処分まで生産者に

大本にある拡大生産者責任

棄という負のサイクルを生産

面でも生活スタイルでも変え

ることが求められています。

大量生産、大量消費、大量廃

画にはあらわれてきません。

については、事実上ゴミ減量計

制)、リユース(再使用)に

います(左図)。

2021年度までに、ごみと資源の総排出量を区民1人1日当たり160g削減します。(2010年度比で16.7%削減)

2021年度までに、ごみと資源の総排出量を10%削減します。(2010年度:71,015t → 2021年度64,140t)

【ごみ量の削減目標】

2021年度までに、総ごみ量を区民1人1日当たり200g削減します。(2010年度比で25%削減)

【リサイクル率の目標】(リサイクル率 = 資源回収量 ÷ 総排出量)

2021年度までに、リサイクル率を25%にします。  
→区民1人1日当たり40gの更なる資源化を図ります。(2010年度比)

- 3つのRをしっかりと実施すべき時です...
1. Reduce (リデュース)・・・廃棄物の発生抑制
  2. Reuse (リユース)・・・再使用
  3. Recycle (リサイクル)・・・再資源化



荒川区新製品・新技術大賞受賞製品と会場風景...



**まづの語あれこれ**

**荒川区産業展、これからの区内産業の展望は...  
くらしに根ざした「ものづくり」再生の道を探求**

荒川区産業展では、荒川区新製品・新技術大賞を受賞した製品の紹介をはじめ、きらりと光る区内事業者のみなさんの「奮闘」の成果を見ることができ楽しみにしています。今回も入り口に受賞製品の写真や解説が掲示してあります。

元々区内の製造業は、一部を除くと下請加工とともに製品ではかつての地場産業であった鉛筆など日常生活用品を中心にしたものでし

た。くらしに密着しているだけに、大企業には出来ない製品の発想も出来るのではないだろうか。区として、そうした環境整備として「産業振興支援センター」的な機能が必要だ。

横山幸次

**裏面 第2回荒川区新製品  
・新技術大賞...など**

## 定例法律相談会

**4月6日(月)  
午後6時～8時  
横山区議事務所**

弁護士と横山区議が相談をお受けします。秘密は厳守します。お急ぎの場合は、北千住法律事務所の相談日などご紹介いたします。

生活相談は、随時受け付けています。  
TEL&FAX 3895-0504  
不在時は、留守電へ、後で連絡します。  
区役所控室 3802-4627

# 荒川区新製品・新技術大賞からみえる 区内製造業「ものづくり」の可能性



## 《最優秀賞》折って曲げて文字を書かなくても思いが伝わる付箋「MEMMOめんも」

(株式会社バックストリートファクトリー)

上下の小さなメモの部分と手足にそれぞれ糊がついており、自由に折って、曲げて、人間と同じようなポーズを再現することで、何も書かなくても、気持ちを伝えることができます。この製作には、レーザー加工を施し、型抜きではできない複雑なカットング技術が活かされています。これにより、細やかで繊細なデザインとすることに成功しました。文字だけでは伝わらないことも、本製品を活用すると、相手に伝わるかもしれません。(区のホームページより)

## 《優秀賞》低価格で利用可能な見守り装置「NetMil」Wi-fi対応型、LTE対応型(志幸技研工業株式会社)

ネットミルは、独り暮らし高齢者家庭等での電力使用量の変化を解析し、生活リズムが普段と異なる場合(異常が発生した場合)に、家族等の登録したメールアドレスへ注意・警告・家電操作情報(お元気情報)の案内を送信する装置です。加えて、電力使用量から生活リズムをスマートフォン等で随時確認することができます。本装置により、離れて暮らす家族が生活リズムを把握することができ、さらに緊急コールボタンをつけることで、孤独死や事故などの防止につながります。(区のホームページより)



## その他の受賞製品

### 《優秀賞》

カテーテルチューブ溶着装置

MS-TK102

(精電舎電子工業株式会社)



印傳(いんでん)のような紙のブックカバー

(株式会社オフィスサニー)



### 《入選》

同軸2バケット自動ゆで上げシステム

(株式会社 富士工業所)



環境対応型太陽電池用バックシート

(東京尽陽株式会社)



いずれも町工場らしい、生活に根ざした製品ばかりです...この全てにヒントが

区内製造業・町工場の減少が続いています。伝統的のものづくりのまち荒川区をどうすれば今目的に再生できるのか大きな課題です。

そこで今回の第2回荒川区新製品・新技術大賞受賞製品を見ると、多くのヒントがその中に詰まっていると感じます。

その第一は、生活に根ざした製品だということです。文具から福祉、医療機器、食品製造など多様です。人々の何気ない日常の営みの中に製品のアイデアやヒントがあったようです。

第二は、大企業では絶対まねできない「町工場」で、小回りが利く「個別の高い技術力」をどう生かす

## 荒川区における製造業の推移

	工場数	従業員数
2001年	3,753	24,603
2006年	2,945	19,415
2009年	2,463	16,190
2012年	2,113	12,627

01,06年事業所調査、09,12年経済センサス

かです。最優秀賞の「めんも」は、レーザー加工が得意な町工場はレーザー加工技術、糊付け技術のある町工場は糊付け、営業が得意な町工場は営業など、それぞれの町工場の技術が合わさって作られ質は圧倒的に高く、他にはまねできないといえます。地域の町工場の総合力です。

第三に、介護など社会的に解決すべき分野での発想です。今回優秀賞の見守り装置「ネットミル」は、区の福祉事業である緊急通報システムに対応し、電気の使用量変化で高齢者の緊急・異常事態を伝える装置として開発されました。減少したとはいえ、きらりと光る区内町工場の技術力は多くあります。その総合力をどう発揮するか今後の課題です。

## 「耐震強度」偽装事件を想記 免震装置データ偽装問題...

免震装置のゴム製部品に性能不足とデータの偽装があり、一部の自治体の庁舎なども利用していると報道がありました。かつての「姉歯 耐震偽装」を思い出しました。

荒川区の本庁舎も4年前に同様の免震工事を行っており、大丈夫かと心配になって確認をしました。

結論は大丈夫。

荒川区の使った製品は、形状はほとんど同じですが、オイルス工業のLRBというもので問題製品ではないようです。

それにしても万一の事態に多大な人命に関わるだけに、メーカー責任と国などのチェック機構も改めて問われます。

